

CONTENTS

- 町の掲示板 2
- 町の話 9
- know「農」 12
- カルチャー 13
- 町の情報ひろば 15
- 素敵人 16
- こうげマンが行く! 16

http://www.town.koge.lg.jp

飛翔



町の花(春)桜
町の花(秋)コスモス
町の木 梅

編集発行/上毛町役場企画情報課
印刷/第印刷株式会社
〒871-0902
福岡県築上郡上毛町大字垂水1-32-1-1
TEL 0979-723-111
FAX 0979-723-664

人の動き

11月30日現在

- 世帯数 3,129 (-4)
- 男性 3,762(-17)
- 女性 4,224 (-5)
- 人口 7,986(-22)
- 65歳以上 2,524(-3) 31.6%
- 75歳以上 1,409(-2) 17.6%

うち外国人

- 人口 25(-1)
- 男性 19(-1)
- 女性 6(+0)
- 世帯数 22(-1)
(うち混合世帯4)

参考

平成17年10月11日
合併時

- 人口 8,499
- 世帯数 3,057

ごみの量

11月30日現在

- 可燃ごみ 114.27t (-16.43t)
- カン・ペットボトル 3.13t (+0.30t)
- びん 4.83t (+1.39t)
- 古紙他 19.82t (+11.47t)
- 可燃粗大 4.18t (+1.24t)
- 不燃 7.97t (+1.51t)
- プラスチック製容器包装 1.73t (+0.15t)
- 紙パック、白色トレイ 0.05t (-0.01t)

※()内は前月増減

環境対応型植物油インキ
を使用しております。



にい み じゅん べい 新見 準平さん

福岡県上毛町(旧大平村)出身。築上東中学校、大分県立芸術緑丘高等学校ピアノ科、東京藝術大学音楽学部声楽科(同声会賞、アカンサス音楽賞受賞)、同大学院修士課程修了。現在、私立ウィーン音楽院リート・オラトリオディプロム科に在籍。

小さな頃から世界地図を好み、宇宙に憧れ、絵描きになりたくて、ピアニストを夢見た。…とにかく周りの友だちが興味を抱かないような事が大好きでした。中学生の頃、既に優良肥満児だった僕は、友人の勧めで卓球部に所属。ある日、体育館にあったピアノで流行っていた曲を弾くと、卓球部の皆がとても喜んでくれて(当時は絶対音感があって、大体一回聞けばピアノで弾くことができたのです)「音楽ならもっと多くの人が喜んでくれるかもしれない!」と高校は大分市の芸術科高校へ進学しました。

いざ入学して同級生たちの演奏を聴くと、当然のことながら上手かった。昔、小さな頃からピアノを勉強していて、ピアノを始めるのが遅かった僕は大きなショックを受けました。それからは、誰よりも沢山練習することは少しもツライとは思いませんでした。その日から自分の中で音楽が少しずつ変わっていき、ピリと近く入学した実技の点数も、2年の時にはトップに。でも、実はピアノを一人で弾くことはとても孤独で、僕は歌や楽器と共演するアンサンブルの方が好きでした。

ある日友人の歌の伴奏でレッスンについていった時の事、歌の先生に「新見君は声がイイね。発声してみな?」と声をかけられて、僕は新しい世界と出会ったのです。「これこそ、僕のやりたいことだ!」と心が震えました。1年間猛勉強して、倍率10倍の狭き門、東京芸大に現役合格。

大学では日本の第一線で活躍する先生や先輩に恵まれ、歌手になることが当たり前という環境の中で勉強しました。歌いすぎて声を壊したり苦しい時期もありましたが、大学院在籍中にベートーヴェンの「第九」ソリストで楽壇にデビュー。オペラ出演の話も舞い込んでくるようになり、2年間大学の助手としてオフィスワークをしながらプロの歌手として活動。そして、昨夏から音楽の都ウィーンで更なる研鑽を積んでいます。実はクラシック音楽と出会った小学校の頃「いつかウィーンに住むんだ!」と周りの人に言っていたと、最近知りました。自分でもすっかり忘れていた夢の街に、今生きている…。これまで支えてくれた家族、師匠、友人に、いつの日か音楽で恩返しできたらと思って、毎日生きています。

いつだって、ダメでもともと

いつだって他の人より、遅いスタートだった。周りに「ピアノを始めたのが遅かったんだね」「芸大は無理でしょ」と言われても、いつも諦めませんでした。誰が何と言っても、やってみなければ結果は分からない!どんなツライことも、後となっては良い思い出。常に諦めない。そうすれば、必然的に思い描く自分の姿に、一步一步近づいていけると信じています!



僕がオペラを歌うようになるまで

■ 新見準平と愉快的仲間たち~オペラコンサート2014を、3月25日(火)吉富フォーユー会館で開催しますのでぜひ、お誘いあわせの上、ご来場くださいませ。

こうげマンが行く! 恒久橋と貴船神社

下唐原

下唐原集落の東端、山国川に架かる恒久橋は現在三代目。昭和の初めの頃は人が歩いて渡る位の板を敷いたものだったんだ。唐原地区はその昔、旧中津藩領だったため、生活圏の大部分は大分県側だったんだね。

昭和11年(1936)、久恒貞雄氏の寄付により、車が通ることができる橋が完成。当初、橋の名前は久恒橋と命名する予定だったが、本人の辞退により久恒を逆に読み、恒久橋となったそうだよ。平成6年(1994)に新しい橋に架け替えられた際、橋の親柱が記念として下唐原の貴船神社に残っているよ。



地元の皆さんは大切なご恩を忘れずにいるんだよ。

元旦にもお神楽を奉納するので行ってみてね。

貴船神社はその名称が示すとおり、下唐原集落の農耕神として水神を祀る神社なんだよ。境内にある記録には正親町天皇時代の天正年間に建立、元禄九年(1696)に社殿を改築したとあるよ。境内の碑は、昭和三年(1928)に氏子の皆さんが神を厚く敬う気持ちを願い、建てられたそうだよ。

今年も11月24日(日)、貴船神社では毎年恒例の子供神輿や唐原神楽講による神楽が奉納され、子どもたちは元気よく「わっしょい」の掛声とともに地区を回っていたよ。こうして集落を愛する思いが先代から受け継がれていくんだね。



イラスト/絵本製作委員会 東みどりさん